

解釈検討

学年	教材	検討内容
4年 I学級	「ぼくは川」	<p>⑦や⑪、⑫に書かれていることはどういうことか、気になる部分として挙げたが、部分部分で見えていくのではなく、まずは詩の全体像を捉え、きちんと全体の解釈を持つことが必要である。また、朗読に着目し、学習前の読みは淡々と読み、学習後には読みを変えられるようにする(最初のイメージと変えさせるようにする)ことが大切である。</p> <p>①から⑤に書かれていることについて、①で「じわじわ」と広がった水が、⑤では「とまれと言ってももうとまらない」というように、すごいスピードで川が流れている様子から、川のスピードが変化していることに着目することができた。そこで朗読では、①から⑤にかけて読むスピードを変化させることが必要である。</p> <p>⑤の「とまれと言っても」とあるが、“誰が「とまれ」と言っているのか”、⑥の「ぼくは川」とあるが、“ぼくが川なのか”、“川がぼくなのか”等、書かれていることによく着目し、なぜそのような表現になっているのかを考えることが必要である。</p>
6年 H学級	「せんねんまんねん」	<p>最後に「ながい みじかい せんねんまんねん」とあり、「ながい」「みじかい」と表現されていることから、何と比べているのかを考えたが、明確な考えを出すことはできなかった。「今まで土の中でうたっていた清水～ヤシのみの中で眠る」という部分から、清水からスタートして、ヤシの実にその水が入り、その後、ミミズ、ヘビ、ワニ、川へと生態系のサイクルができたのではないかと考えることができた。</p>